

里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A (対象地域の概況)

NO.109			飯田（はんだ）高原		生物地理区分		シイ・カシ萌芽林	
					地域区分		奥山周辺	
所在地	都道府県	大分県	地形条件	○ 1.山地	2.山麓部		3.丘陵・台地	
				4.低地	5.その他			
	市町村	九重町	環境要素	○ 1.二次林	2.草地		○ 3.水田	
				4.畑	○ 5.小川・水路	6.ため池		
	集落名称等	中村		○ 7.池沼・湿地	8.社寺林		○ 9.人工林	
10.その他								

環境要素（対象とする地域に含まれる環境要素）

：面積割合が最大のもの ○：それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
国立公園 鳥獣特別保護地区	「重要湿地 500」
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
ラムサール条約湿地 タデ原、坊ガツル（高地の草原）	



撮影時期：2007 年 10 月

写真の説明：九重町で見られる稲刈後の掛け干し

撮影時期： 年 月

写真の説明：

NO.109		飯田(はんだ)高原		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	大分県			2.団体・企業・学校等
	市町村	九重町			○ 3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	中村			4.多様な主体が参加・連携する組織体
					5.その他

取組 主体	主な主体の名称		九重ふるさと自然学校(運営母体は一般財団法人セブン-イレブン記念財団)		
	その他の主体の名称		九重町		
目的 ●:主 ○:その他	○	1.農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化(伝統的なものも含む)			
		対象・取組内容	田んぼづくり:九重町内の田んぼをおよそ2反半借り、有機無農薬で田んぼづくりを行うことで、生き物がたくさんいた昔ながらの里山田んぼを守る。 炭焼き:炭材として放置された二次林を伐採し、萌芽更新により新しい雑木林を再生し、生態系を維持する		
	○	2.バイオマスなど新たな資源としての利用			
		対象となる資源	木		
		利活用方法等	雑木林整備:再生のために伐採した木を炭にし活用している		
	●	3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用			
		自然観察会			
		環境教育・学習活動	*	トキこども大使、トキの里クラブ、出前授業	
		里地里山体験・環境保全	*	炭焼き、外来種駆除	
		農林業体験活動	*	田んぼづくり	
		エコツアー			
	○	4.野生動植物やその生息地の保全・管理			
		取組内容	タデ原において希少植物の保護活動が行われている。また草原環境維持のため、野焼きが行われている。		
	○	5.地域の良好な景観の保全・修復			
		取組内容	昔ながらの米づくり(かけ干し、土水路、土あぜなど)		
	○	6.里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承			
対象		生活行事	*	田植えひもを用いた大人数での手植え、昔ながらの稲刈	
		資源利用技術	*	この地域に伝わるシラス土を材料とした炭窯(土窯)をつくり、クヌギ等を焼いている	
		その他	*	温泉を用いた育苗(湯苗)畦ぬり、手植え等	
		取組内容	地元老人会などを講師とし昔ながらの技術を教えていただき、それをスタッフが学び実践しつつ多くの人々に伝えていく活動を行っている		
連携・協働による 取組内容・役割分担等			自然学校は講師、参加者、協力者として地元住民、役場等の方と一緒に活動を行っている。また地元の活動に対しては、NPOと連動し、スタッフ参加者として活動を行っている		
取組の特徴や強調したい点			自然学校のある九重町は自らで何とかしようとしている方が多く、国や県にたよらず解決してきたところで、地元行政、企業、農家、NPOと異分野の人たちが一致団結している点		

取組の概要	地元行政、企業、農家、NPOが自然学校に協力して里山保全	課題グループ ● 学習体験 ● 仕組 ● 手法
事例の特性	活動団体の自律的活動を通じたコーディネート(奥山周辺)	
取組の中で他の地域の参考となる点	地元行政、企業、農家、NPOが連携して里地里山保全を推進。自然学校は地元住民等と協力して田んぼや雑木林再生などを行う。また、地元主体の活動にはNPOと連動しスタッフ参加者として協力する。	